

私たちは、自閉症という障害をもつ人たちが、彼らなりに社会の一員として自立自足をめざし、豊かな人生を生き抜くよう共に道を拓いていくことを目的としています。

檜の里

令和4年6月28日発行 / 第107号

発行人 A J U
東海身体障害者団体定期刊行物協会
名古屋市中区丸之内3-6-43みこころセンター4F
編集 社会福祉法人 檜の里
〒510-1326 三重県三重郡菟野町杉谷 1573
電話 (059) 394 - 1595
編集責任者 山田 勉
購読料 1部 100円
(会員の購読料は会費に含まれています)

作業から 創作・文化活動へ

～人生のシフトチェンジ～



手元に集中して作品を仕上げる



個々の感性を生かした作品



独創的な四季の壁画

二〇二二年四月、コロナ禍で迎える三回目の春となります。この間、今年こそ新型コロナウイルス感染症が終息し、新たな生活に取り組みうとの切なる願いから、毎年、コロナ後に向けた事業計画の策定を繰り返してきました。ところが、結果的に鎮まる気配はなく、相変わらず感染予防第一のまま、家族のもとへの帰省や外出、近隣の地域やボランティアの皆さんとの交流、移動支援などの福祉サービスの利用、さらに、ちょっとした外出や買い物、ごく数軒先に住むあさけ学園の入所施設とグループホーム、自宅からワークセンターに通う利用者たちが同じ空間で日中活動を共にすることすら、ままならない日々が延々と続いていきます。

そんな最中に策定された「二〇二二年度事業計画」の全文を次ページに掲載しましたが、このコラムでは、「今年度の事業計画策定にあたって」という標題で、その前段を述べようと思います。初めに、長期にわたるコロナ禍に対応してきた業務や支援を本来の目的や意味から見直し、感染予防対策最優先の不自然で制限的なルーティンの改善・修正が必須となります。これについては、感染状況を見極めながら段階的に移行してい

くつもりです。一方で、事業計画の「はじめに」にも示したとおり、コロナ禍での取り組みを一掃してしまうのではなく、今後も継続の望ましいプログラムの成果はきっちり記録に留めて活用すべきと考えています。加えて、コロナ後の取り組みを始めるにはしばらく時間がかかると思うので、



今年度の事業計画 策定にあたって

自閉症総合援助センターあさけ学園 施設長 近藤 裕彦

次ページの「はじめに」の項に記したとおり、並行して、二年後に義務化される法人と連携した三つのシステム整備に着手しておくことにしました。この中には「(三) 感染症対策等の検討も含まれているので、コロナ禍で培ったノウハウは必ずや貴重なデータとなるでしょう。」

「はじめに」に続く事業計画では、コロナ後の生活の再構築を織り込んだ六つの項目を掲げています。このうち、一番目の自閉症総合援助センターあさけ学園全体の事業内容については、特に前年度からの変更はありません。二番目の特定相談支援事業所は、サービス等利用計画の作成やモニタリングの客観性を重視して、先の自閉症総合援助センターとは分けて位置づけています。そして、三番目にあさけ学園の施設入所支援の利用者について、四番目は、地域からワークセンターひのきに通所してくる人たちが、グループホームで生活する人たちに特化したものの、五番目に職員研修に関する内容で構成されています。

とは言うものの、前述したように二〇二〇年や二〇二一年も年度内の終息を期待していたこともあり、最後の六番目の施設整備に向けた検討を除外とほぼ変わらぬ内容になってしまったのはやや気が引けるところです。しかしながら、すべての内容はコロナ後の一年目に着手すべき重要な課題と考えられることから、ここに「二〇二二年度事業計画」として皆さんに提示することにしました。

今後とも、自閉症総合援助センターあさけ学園の諸事業に対して、ご指導やご協力のほどよろしくお願いたします。

○はじめに

昨年度も新型コロナウイルス感染症の終息への願いは叶うことなく、引き続き、辛抱強く予防対策を講じていくことになりそうです。一方で、コロナ禍がもたらした影響は計り知れないものであります。この災害の中で次へ繋がる成果はなかったのでしょうか。前向きにこれまでの約三年間を振り返りながら、今年度こそはコロナ後の生活を組み立て直す一年にしたいと思っております。

特には、法人と連携して以下のシステム整備を行なっています。

- (1)業務継続計画（BCP）の策定
- (2)身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会の設置
- (3)感染症及び食中毒の発生子防及びまん延防止のための対策を検討する委員会の設置

○二〇二二年度事業計画

1. 自閉症総合援助センターとしての取り組み

あさけ学園（生活介護・施設入所支援 定員四十名、短期入所 四名）、ワークセンターひのき（生活介護 定員四十名）、あさけホーム（共同生活援助 二十二名）、三重県自閉症・発達障害支援センターあさけ、あさけ診療所（児童精神科・心療内科）を一体的に運用して、自閉症のある人々への総合的な支援を継続してまいります。

○はじめに
の居住環境を最大限に活用し、二十四時間を通じた個別的な生活支援プログラムに取り組みます。

○はじめに
用者の精神科医療を担当するとともに、健康や安全面についての管理及び指導を行なう。

○はじめに
の相談支援機能を担う検討及び取り組みを行なう。

○はじめに
（Total Life Care Program）への取り組み

○はじめに
単に支援スキルや方法論の学習に終始することなく、利用者の日常生活面での対処スキルや判断など、個人の特性に応じた支援を展開してまいります。

○はじめに
積し、深めていく。

○はじめに
に要する排水設備工事（あさけ学園一箇所、ワークセンターひのき二箇所、グループホーム三箇所）に向けた取り組み

二〇二二年度事業計画

自閉症総合援助センター 施設長 近藤裕彦



○はじめに
の必要な利用者への集中的な取り組みや緊急時の短期入所の受け入れ、その後のフォローアップなどの機能を担うための整備を行なう。

令和四年度 後援会費納入のお願い

社会福祉法人檜の里後援会 会長 飯田 俊司
私たちは自閉症という障害を持つ人達が、彼らなりに社会の一員として自立を目指し、豊かな人生を生き抜くよう共に道を拓いて行くことを目的としています。

年会費 正会員 一〇二万円以上
賛助会員 一〇二千元
（何口でも結構です）
ご連絡先は「あさけ学園」
TEL 059-394-1595です。

法人会計報告についての お知らせ

令和四年六月十八日に開催の定時評議員会において二〇二二（令和三）年度事業報告並びに決算報告が承認されましたので、ここに報告いたします。

社会福祉法人檜の里後援会の 書面審議結果について

令和四年度社会福祉法人檜の里後援会の総会に代わる「書面審議」結果は過半数以上のご賛同により承認いただきましたので、ご報告致します。（後援会役員）

世界自閉症啓発デー ONLINE2022 —輝く人・照らす人—



二〇〇七年十二月の国連総会で毎年四月二日を「世界自閉症啓発デー」とすることが決議され、以来全世界の人々に自閉症を理解していただく取り組みがおこなわれてきました。

今年もコロナ禍のため、大勢の人が集まるシンポジウムは避け、いわゆるリモートで開催されました。主催団体がインターネットで動画を配信し、各自がそれを見て自閉症について理解するという形になりました。

今年もコロナ禍のため、大勢の人が集まるシンポジウムは避け、いわゆるリモートで開催されました。主催団体がインターネットで動画を配信し、各自がそれを見て自閉症について理解するという形になりました。

ありました。三重県からは津市の北岡青さんが樹脂粘土で素晴らしい作品を作っている様子が紹介されました。

院議員の挨拶があり、その後点灯式があり東京タワーがブルーにライトアップされました。

「還暦を迎えたお二人」



○中島俊浩さん
およそ二十年前のことになりましたが、私が中島俊浩さんと初めて会った時、本人は「ぶーさん」というニックネームで呼ばれていました。なぜ「ぶーさんなのですか？」と先輩職員に尋ねると「ぶー」と言うからだよ。本人にもあだ名で呼ぶことは許可を得ているから」と聞きました。

○森 浩子さん
一月二十三日(祝)、B棟のみんなまで森浩子さんの還暦のお祝いをしました。

支援と連帯の輪

95

この前三月二十二日(金)の午後二時から、あさけ利用者への三回目のコロナワクチン接種(モデルナ製)が行われました。会場はいつものワークセンター1ひのきのホールで、今回は孤野厚生病院にご尽力頂きました。改めてお礼を申し上げます。

は色々で、前回は強迫症について触れました。私が医者になった頃には強迫症は治療困難だと先輩医師から

した。ところがこのアナフラニールで劇的に良くなったのです。忘れられないケースでした。今ではSSRIと呼ばれる一群の抗うつ薬と認知行動療法の組み合わせで治療が可能などこの

は面白い、私達にも時にある既視感(デジャ・ビュ)は短時間で、それが未経験であることが自分には分っています。

多いのです。上記の強迫症の場合もその例で、誰にでも念入りに確認したり少々こだわったりすることはあるものです。

ADHDの場合、幼児の頃から治療を続け小学校ぐらいまでは多動と衝動性、中学ぐらいからは不注意と課題遂行の困難が問題となります。ところが高校年齢になると、自分も周りもこの程度なら許容範囲だろうと抗多動薬も外来通院も終りにして何とかやっているケースも多いのです。

利用者の健康問題

44

あさけ診療所所長 小西眞行

心配は副反応ですが、翌日には十九名に三十八度台の発熱が見られました。前回は十一名でしたので八名増です。これが最後の接種になるといいのですが、テレビでは四回目云々と報道され、コロナ禍の終息はまだ見通せない様です。

教わりました。しかし抗うつ薬のアナフラニールが有効だと昭和四十年代に分かってから治療は可能になりました。

つぎに先日の朝日新聞で四日市の方の短歌「花誘う初めての道なつかしき」に目が止まりました。選者の解説に、「…初めてなのに妙に懐かしい感じがする。そういう既視感というのはいまあるものだが…」とあります。病気の症状と

不快感や吐き気も同時に生じていました。ところが高校を卒業してからでんかン発作が起るようになり、この青年の既視感ってんかンの精神発作だったと分かりました。この様に病気の症状が、私たちの一時的なものとして地続きであることも

思いですが、これからの第二の人生、楽しいことあると健康第一で元気でパワフルな森さんでいてね。

森さん(二名)からのお祝いの言葉、みんなからのお花とメッセージ入りパネルの贈呈そして、紅白のお饅頭をみんなでお楽しみしました。最後は、森さんからの感謝の言葉で締めくくり、全員で記念撮影をしました。



森さん六十歳
還暦おめでとう!!

(支援員 井戸久美)

学園だより

創作・文化活動って何？
そう思われている方が多い
のではないのでしょうか。

職業支援課に位置付けさ
れており、日中支援の一
つとして、生活の場である所
属部署と連携し、個々の
ニーズに合わせた活動プロ
グラム（創作活動、健康増
進活動など）を行っていま
す。

十数年前までは、受注作
業や農作業などに「バリバ
リ」働いていた利用者です
が、歳を重ねていくことを
考えて、受注作業をしなが
らも「作業以外の活動」と
して、家庭菜園や季節行事
などの企画活動、ウォーキ
ングなどの運動を行ってい

たのが前身で、現在の形に
なったのは七年ほど前から
です。

「創作・文化活動」とい

創作・文化活動

う名称をもらい、作業から
活動への転換し人生のシフ
員も。

楽しさが持てるような

内容、楽し
めるような
題材など、
日々試行錯
誤しながら
行っている
創作・文化
活動のプロ
グラムとし



家庭菜園で収穫

いる利用者も一生懸命で、
独創的な作品や個々の感性
が前面に出ている作品がた
くさん出来ています。
（作品は、三重県自閉症
協会主催の作品展などにも
出展しています）。
健康増進活動では、外部
講師のアドバイスを参考

トチェンジの、意味合い
を持った部門としてスタ
トしています。

日常生活の中に生きが
いや潤いを」と大きな目
的を掲げていますが、合言
葉は「楽しむ」です。利用
者はもちろんのこと、支援

では、冒頭であげた創作活
動と健康増進活動が主に
なっています。

創作活動では、制作する
過程や完成品を展示して四
季を感じられるような壁画
や置き飾りなどを色々な手
法で作っています。指先が
不器用だったり、力加減が
難しかったりする利用者も
多く、制作中には「そつと
ね」「そうそう」「いいん
じゃない」「待って」（非
鳴）など支援員の声か飛
び交っていますが、参加して

る利用者も一生懸命で、
独創的な作品や個々の感性
が前面に出ている作品がた
くさん出来ています。

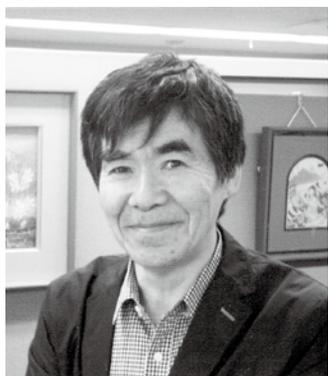
健康増進活動では、外部
講師のアドバイスを参考

インタビュー

あさけ学園の皆さん、こん
ちは。私は名古屋で弁護士
をしています。今から二十年

を中心とした施設、それも親
御さんにより設立されたもの
説明を受け、研修会等を何度

もらうか」を真剣に考えられ
ており、これに感銘を受けた
ことが昨日のことのように思
い出されます。



弁護士
くまだ ひとし
熊田 均さん

以上も前に

当時理事長
であった亡
石丸さんと
お会いし、
成年後見制
度のお話を
あさけ学園
でさせて頂
いたことが

私と学園のお付き合いの始ま
りです。

もさせて頂きましたが親御さ
んたちが「子らにどのように
生き甲斐のある生活を送って

あさけ学園もいつまでも
「元氣」でいて下さい。応援
しています。

このコーナーはインタビュー形式ですが、今回は
弁護士 熊田均さんに投稿いただきました。
【編集部】

第十三回 三重県自閉症協会作品展

今年も三月三十一日(木)
四月三日(日)に世界自閉症啓
発デーの特別企画として
「三重県自閉症協会作品展」
が開催されました。
あさけ学園も創作活動で
制作した作品をメインに、
絵画教室で描いた絵や個人
の趣味で撮った写真を出展
させてもらいました。

の絵を見ながら「絵を描く
のが大好きなんですよね」と
と説明してくれました。絵
からは、勢い、感じられ
元気がもたらえそうな感じ
がしました。
コロナ禍が続いています
が、それを感じさせない作
品展だと感銘を受けまし
た。（支援員 米川宗秀）

コロナ禍で、中々創作活
動も思うように進めていけ
ない部分もありましたが、
その中でも、素晴らしい作
品が出来て、それを展覧で
きたことは大変よかったです
と思います。

作品展の会場で出展作品
をセッティングした後、会
場内で他の施設等の作品を
見る機会がありました。絵
画、アクセサリー等の工作
書道など色々な創作作品が
展示されていました。アクセ
サリー等の工作や貼り絵な
どで「これ、プロの作品じゃ
ないの？」と思うような作
品もあったり、書道も「も
う芸術の域」という作品が
多々ありました。

あさけ学園もいつまでも
「元氣」でいて下さい。応援
しています。

同じ作者が、数枚絵画
を出展していて、その作品
を見ていた時に「これ、う
ちの息子が描いたんです
よ」と嬉しそうに女性の方
が話し掛けてきました。そ

ちよさそうに穏やかな表情
になっていきます。
その他にも、活動を利用
する全員が参加しての季節
にちなんだイベントやおや
つ作り・昼食作り（現在は
実施出来てない）なども
行っています。参加利用者
から「楽しかった」「美

味しかった」「またやり
たい」との言葉を聞くと、
また頑張れる気持ちになっ
ている私たち支援員です。
年齢は若くなつていくこ
とはありません。が、身体
と気持ちは環境や刺激の中
で若くなれるはず。創作・
文化活動が利用者にとって

非常用発電 設備の整備

この度、一般財団法人エ
ルピーガス振興センター
（執行団体）から国の補助
金の交付を受けて、プロパ
ンガスを利用した停電用予
備発電機（単相8.0/9.9kVA）
一基他の設備を整備いたし
ました。
災害発生時、必要最低限
の電源（情報端末機器、通
信機器、照明器具）を確保
することにより、障害者支
援施設「あさけ学園」並び
に孤野町と協定を締結した
「福祉避難所」の施設機能
が維持できるようにいたし
ます。

今回の整備対象区域は強
度行動障害処遇棟、事務棟
の二棟のみですが、今後は
入所利用者の居住区域の整
備を検討したいと思いま
す。
（事務長 永久雅晴）

編集後記

保護者会、
後援会の総会
は三年連続の
中止となりま
した。保護者
間のふれあい
が当たり前で
あった状況が
変わり、相互の情報共
有、意見交換などがで
きず残念な思いです。
新型コロナウイルス
の感染状況を考えると、
いまだ収束の目途は立
たない状況が続きそう
です。

政府から屋外での脱
マスク議論が始まりま
した。今後どのように
進むのでしょうか。ま
だまだ気を緩めるわけ
に参りません。
これからの季節、熱
中症に気を付けつつ、
希望をその先に求めて
いきたいと思います。
今年度の編集委員は、
理事長山田勉、施設長
近藤裕彦、支援員池田
健一郎、保護者市川潮
渡辺昭二、米村ユカリ、
伊藤貴宮子で、皆さま
に親しまれる充実した
紙面づくりを目指しま
す。どうぞよろしくお
願いたします。
（伊藤貴宮子）

今後利用者者の生活の一
部分として、楽しく、色々
な事にチャレンジしてい
たいです。
（支援員 松井ひとみ）

